

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670300773
法人名	宗教法人 光徳寺
事業所名	グループホーム 華蓮
訪問調査日	平成20年8月23日
評価確定日	平成20年9月25日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

〔取り組みを期待したい項目〕

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

〔取り組みを期待したい内容〕

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670300773
法人名	宗教法人 光徳寺
事業所名	グループホーム 華蓮
所在地	鹿屋市野里町3456番地7 (電 話) 0994-42-7223
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成20年8月23日

【情報提供票より】(平成20年8月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年3月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	4人, 非常勤 6人, 常勤換算 4.6人

(2)建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

(4)利用者の概要(8月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.2 歳	最低 84 歳	最高 94 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 おさしお会 長崎内科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム内は明るく清潔感があり、入居者の皆さんは落ち着いた雰囲気の中で自由な時間を過ごされている。地元の自治会に加入しており、地域行事への参加や近隣の小学校との交流が盛んである。消防団とは災害時の協力体制が確立しており、地域の中でホームに対する理解が進んでいることを伺わせる。職員の資格取得や外部研修への参加を積極的に勧めており、他のホームとの交流についても前向きな取り組みが行われている。ご家族の面会機会をなるべく増やしていただくよう取り組んでおり、入居後もご家族とのつながりを大切にしたいという思いが感じられる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価結果に対しては、前向きに具体的な改善を行っており、ケアの質の向上に努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は、自己評価を日々のケアがマンネリ化しないためのきっかけとしてとらえており、評価項目を職員に提示して、その結果の取りまとめを行っている。評価結果については、具体的に検討して質の向上に活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	交流会の日に合わせて開催するなどして、会議がスムーズに行えるように配慮している。会議では、評価に対する取り組み状況やホームの現状等を報告し、出席者からの意見も参考にしながらサービスの質向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時に、意見や相談が言いやすいように声かけを行っている。入居時には、重要事項説明書をもとに苦情相談先等の説明を行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、小学校の運動会等の地域行事に参加するほか、ホーム主催の介護教室やバーベキュー大会への参加を呼びかけるなどして、地元の人々と双方向の交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の皆さんが、地域社会の一員として生活できるように支えて行くことを盛り込んだ理念が作成されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	一個人としての尊重など、理念に掲げた項目と実際のケア内容を照らし合わせて確認しながら、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、小学校の運動会等の地域行事に参加するほか、ホーム主催の介護教室やバーベキュー大会への参加を呼びかけるなどして、地元の人々と双方向の交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、自己評価を日々のケアがマンネリ化しないためのきっかけとしてとらえており、評価項目を職員に提示して、その結果の取りまとめを行っている。評価結果については、具体的に検討して質の向上に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	交流会の日に合わせて開催するなどして、会議がスムーズに行えるように配慮している。会議では、評価に対する取り組み状況やホームの現状等を報告し、出席者からの意見も参考にしながらサービスの質向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者や地域包括支援センター職員と、2～3ヶ月に1回の意見交換会が開催されており、管内のグループホームとともにサービスの質向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月支払い時に来訪されるご家族に対して定期的な報告を行い、金銭管理等の確認も併せて実施している。職員の異動については特に報告してはいないが、ホールの目立つ場所に、職員の名前や資格、その日の仕事内容等が貼り出されており、入居者やご家族にわかりやすいように配慮している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、意見や相談が言いやすいように声かけを行っている。入居時には、重要事項説明書をもとに苦情相談先等の説明を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ず異動がある場合は、入居者へのダメージが最小限になるように引継ぎの期間を十分に持ち、新しい職員が入居者の状況を十分に把握できるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個人の希望や勤務の状況等を踏まえて管理者から声かけを行い、積極的に研修を受講する体制ができており、資格取得への支援も行われている。また、月に1回、地域のグループホーム同士で勉強会を行っている。		研修機会は十分に確保されているが、さらなる資質向上のために、各職員の段階に応じて、必要な内容を考慮した研修計画の作成に期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会、地域包括支援センターとの意見交換会、地域の福祉関係者による経営者会議等を通じて、各職種毎、それぞれに交流する機会を持ち、サービス向上に取り組んでいる。他のグループホームとの見学会や交流会も行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、なるべく見学してから入居してもらうように働きかけている。部屋のレイアウトを含めた環境づくりから始まり、レクリエーションや行事参加への声かけなど、段階を踏んでホームに慣れて行けるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除や料理、花づくりなど、入居者それぞれの力を活かして生活してもらっており、その中から職員も学ばせてもらいながら、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの発言や日常の中での観察、ご家族からの聞き取りなどから、これまでの生活スタイルを踏まえて、入居者やご家族の思いや意向の把握を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者毎の個別申し送り事項の記録を活用し、本人やご家族からの情報収集と合わせて話し合いを行い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	認定の有効期間に応じて見直しを行っている。入居者のケアの内容に変更がある場合には、医師からの情報を受けるなど、必要な関係者と話し合い、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者より、外出や外泊、レストランでの外食等の希望があった場合は、希望にそった柔軟な支援が行えるように配慮している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人およびご家族の希望されたかかりつけ医により、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期については、本人およびご家族の希望をお聞きして、かかりつけ医や職員間で情報の共有を行いながらケアを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳やプライバシーを損ねることがないように心がけて、ケアを行っている。個人情報の取り扱いについては、入居時に身元引受人(主たる判断者)を定め、記録等の情報開示はその方を通してのみ行われるように徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、入居者へ声かけして意思確認を行いながら、入居者のペースでその日が過ごせるよう配慮している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理、片付け等、入居者の好みや力に応じた役割分担を行いながら、食事が楽しみなものになるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には1日置きとなっているが、必要性や希望に応じて、その都度入浴できるように支援している。また、入浴の順番も希望にそって対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸や買い物、行事での挨拶等、入居者一人ひとりの生活歴や力を勘案し、楽しみごとや気晴らしが行えるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺を散歩しながら近所の方々と挨拶を交わしたり、買い物に出かけるなど、自由に外出が行えるように支援している。季節によっては、ミカン狩りやイチゴ狩りも楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解しており、日中玄関は施錠していない。居室については、入居者自身で開閉されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立会いで定期的な避難訓練を行っている。また、地域の消防分団とは、災害時の緊急連絡体制が構築されており、地域の協力が得られるように連絡網が作成されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年1回、栄養士に献立のチェックを行ってもらい栄養バランス等についてのアドバイスを受けている。食事摂取量や水分摂取量については、必要量が確保できるようにチェック表に記録し支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は不快な音や光も無く、季節を感じられる掲示物もあり、入居者がそれぞれに居心地よく過ごせるように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものの持ち込みや、身体状況や認知症の周辺症状等に合わせて配慮された家具や手すりの設置等、入居者が居心地よく過ごせるように工夫している。		